

業務効率を著しく改善し、急速なビジネスの拡大戦略を支える

Cachéによるメリット

- 拡張性・効率のよいデータ構造
- 信頼性
- 迅速な開発



ワイエスフード社 代表取締役社長 緒方正年氏(写真中)

ラーメン山小屋の創業者である代表取締役社長の緒方正年氏は、昭和45年に自分の納得いく味を求めてラーメン店を開業しました。以来そのラーメン店は行列のできる繁盛店となり、暖簾から次々と繁盛店が誕生しました。その後、平成6年にワイエスフード株式会社を設立。ワイエスフード株式会社は、ラーメン山小屋の直営店の運営およびフランチャイズチェーン展開をするほか、自社工場を運営し、麺、秘伝のたれ、ギョーザといった食材の製造から卸、販売までを行っています。

設立以来急速に拡大し、現在では九州地方を中心に直営店42店、海外店を含むフランチャイズ店80店余りを運営しています。また、2004年までには、直営店50店を含む170店舗の展開を計画しています。

平成12年、ワイエスフード社では、急速な業務の拡大と平成16年に店頭公開を目指すのを機に、売り上げ管理、食材の受発注、在庫・配送管理などの全てをシステム化する決定を行いました。その検討の結果、全ての業務運営で使用するデータベースとしてCachéが選ばれました。Caché選択について、このシステムの導入に直接かかわった(株)アイカル 代表取締役社長 執行信昭氏は、「データ構造が分かりやすく、膨大なデータを高速に処理するという昨今のニーズに合致している。」と述べています。

ラーメン山小屋の各店舗には、POS端末に接続されたPCが、セキュリティを考慮し、広域網 / IP-VPN網を利用して本社のネットワークに接続されています。アプリケーションはCachéのCSPを利用して作成されたWebベースで、PCの操作に慣れていない各店舗の担当者が簡単に操作できるようにユーザーインターフェースに工夫をしています。システムの設計にあたっては、業務フローや求められるデータ追加などで様々な変更要求があったとありますが、このシステムの設計を担当した(株)アイカル 技術部取締役部長 山本正敏氏は、以下の様に語っています。「Cachéでのプロトタイプ作りは作業が非常に簡単です。お客様のニーズによるデータ構造の変更、テーブルの統合や分離、項目の追加などは、データが入っていても、面倒なことは一切ありません。」

ワイエスフード社では、Cachéのデータベースを利用し、受発注システム、売り上げ管理システム、在庫棚卸管理システム、生産管理システムなど様々な業務システムを運用しています。ここで一例として、食材の受発注業務を見てみると、業務のフローは以下の通りです。

■業務フロー

